

2020 年度全国社会科教育学会研究奨励賞 選考結果報告

<受賞候補者名>

星 瑞希

<受賞候補論文題目>

生徒は教師の歴史授業をいかに意味づけるのか？

－「習得」と「専有」の観点から－

<『社会科研究』第 90 号（2019 年 3 月）掲載論文>

<選考理由>

（1）研究内容・方法の独創性

本論文の目的は、「2つの高校の生徒が、教師の歴史授業をいかに意味づけるのかを、授業の参与観察や生徒へのインタビュー調査を通して、実証的に明らかにすること」である。本論文は、近年の教育学研究においてさかんに展開されている調査型の研究に属する。しかし、子どもの学びに対する意味づけという観点から歴史教育のあり方を根源的に問い直すという問題意識を基盤として、これまでの社会科教育学研究にはなかった研究方法を開拓しており、本論文には十分な独創性を認めることができる。

（2）論述展開の論理性

本論文では、Wertsch が示した「習得」と「専有」の概念を用いて、生徒が教師の歴史授業を通して、いかに歴史の学び方を「習得」「専有」するのが明らかにされている。調査方法と分析方法を示し、2つの高校の教諭の歴史授業スタンスを提示した後で、それぞれの高校の生徒の授業中の発言や授業後のインタビューを踏まえた考察が詳細かつ具体的に展開され、結論が導かれている。本論文の論述展開の論理性は秀逸である。

（3）社会科教育学研究および教育実践への貢献

本論文は、社会文化的アプローチと呼ばれる研究方法を社会科教育（歴史教育）研究の分野に応用したものである。歴史授業における教師の意味づけと生徒の意味づけの間にギャップが存在することを明らかにした本論文は、歴史教育実践のあり方の再考を促す成果であり、社会科教育学研究および教育実践の向上に大きく寄与する成果である。

今回の審査選考の候補論文は、星氏の論文を含む2本であった。審査委員会に出席した委員全員が、上記の理由により、2020年度の全国社会科教育学会研究奨励賞として星氏の論文が最もふさわしいということで合意したことを理事会と総会に報告いたします。

審査委員 木村 博一（委員長）
加藤 寿朗
桑原 敏典（出席辞退）
溝口 和宏
峯 明秀